III CLINICAL REPORT ――循環器部門システムの運用の実際

1．動画像配信ネットワークの更新に伴う診療情報の統合化
【滋賀医科大学医学部附属病院】

杉本　喜久　医療情報部

当院では，2010年7月より院内業務の電子化，IT化を進めるため電子カルテシステムを導入し，RISなどとも連携を強化して，診療情報管理の一元化を進めてきた。一方，それ以前に導入されていた循環器部門の動画像配信ネットワークシステムは情報連携の枠の外にあり，ほぼ単独で動画像を配信しているだけの存在となっていた。今回，その機器更新に伴い，循環器部門システムとして情報連携を強化するために，次のポイントを目標に定めてシステムを構築した。

・すべての診察室で画像参照を可能とする。
・心臓カテーテル検査台帳を電子化する。
・心臓カテーテル検査台帳とオーダ情報を連携させる。
・電子カルテシステムへ情報を集約させる。

本稿では，その成果を報告する。

システム更新以前

当院では，2004年秋に循環器部門に限定した動画像配信ネットワーク「Goodnet」（グットマン社製）を導入した。端末数4台，NASとDVDオートチェンジャで二重のバックアップ体制をとり，動画像のフィルムレス化を行った。しかしながら，動画像が参照できるのは4台の専用端末のみであり，画像以外に参照できるのは，DICOMデータに付随した患者名や性別などの基本情報のみであった。電子カルテシステム導入後の情報連携が強化された体制下においても，電子カルテシステムの情報とGoodnetの画像情報とを関連づけて扱うことが難しかった。

すべての診察室で画像参照が可能（図1）

電子カルテ端末は，院内いずれの場所にも設置されている情報端末である。それにWebベースのビューワを搭載し，GoodnetのWebサーバへ患者IDを検索キーとして過去画像へアクセスし，参照できるようにした。PACSサーバからも同様の方法で画像参照ができるため，電子カルテ端末上で，すべての画像が参照可能となった。現在，Goodnetに接続されているモダリティは，Angio（シーメンス社製）2台，Angio-CT（東芝社製）1台，ポリグラフ2台，IVUS 1台である。脳神経外科のDSA画像は，モダリティ側でDICOMデータに変換できないため，

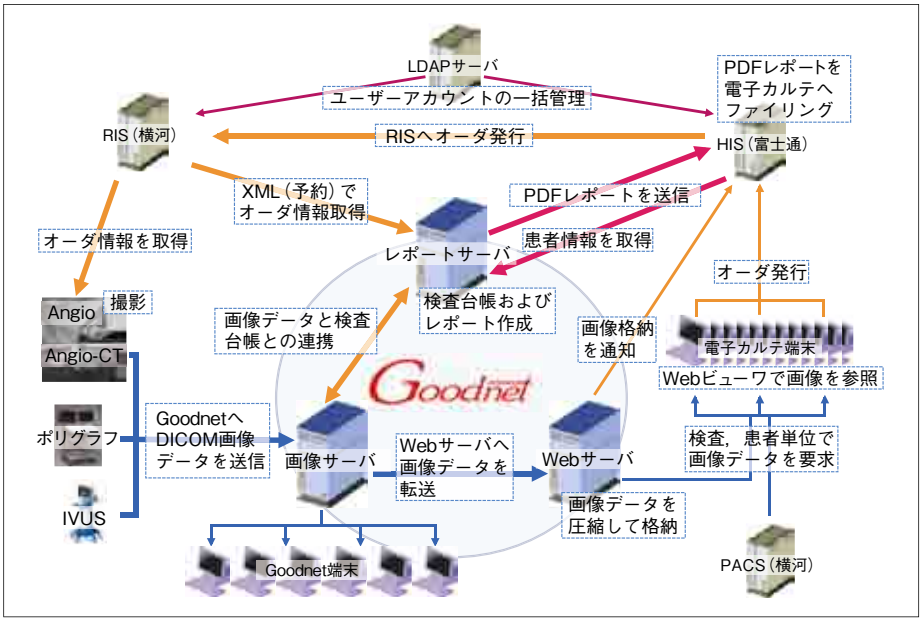

図1　動画像配信ネットワークに関連するデータフロー図

〈0913-8919/11/￥300/ 論文 /JCOPY〉